

第38回「法人会全国青年の集い」福井大会参加報告

青年部会長 森本 英樹

令和6年11月7日(木)、8日(金)に福井県のフェニックス・プラザ、コートヤード・バイ・マリオット福井、サンドーム福井で開催された第38回法人会全国青年の集い福井大会は、「福の國より未来を研げ！～志を立て、新時代の扉を開こう～」をスローガンに掲げ、全国から約2,000名の青年部会員が参加しました。当会からは3名が参加しました。このスローガンは、福井県出身の幕末の志士・橋本左内の教え「立志」にちなみ、新時代を切り開く志を掲げたものです。

大会初日には、租税教育活動や健康経営大賞のプレゼンテーションが行われました。高松局からは幡多法人会が「未来へ紡ぐー知識と活動ー」というテーマで発表を行いました。この発表では、租税教室の開催件数増加に伴う講師不足という課題に焦点が当てられました。課題解決のための施策や、より多くの子どもたちに分かりやすい形で租税教育を届けるための工夫が共有され、持続可能な租税教育の必要性が強調されました。その後の部会長ウェルカムパーティーでは、全国の部会員同士の交流が深められました。

翌日の部会長サミットでは、会員拡大や租税教育活動の効果について活発な議論が行われ、地域社会への具体的な影響について深く考察されました。続いて、元フジテレビアナウンサー笠井信輔氏による記念講演「足し算で生きる～がんステージ4からの生還～」が行われました。

笠井氏の講演では、自身がステージ4のがんと診断された時の体験を通じて、「諦めずに前を向いて生きること」の重要性が語られました。告知を受けた瞬間の絶望感から、治療と向き合いながらも、クリスマスや年越しそばといった日常を大切にすることが希望を持ち続ける力になると話されました。また、橋本左内の「立志」に触れながら、夢や目標を持ち続けることで運命が味方することを力強く訴えました。さらに「幸せ貯金」という考え方を紹介し、つらい出来事の中にも感謝や喜びを見つけていく姿勢が重要であると述べられました。

その後の大会式典では、租税教育活動プレゼンテーションの最優秀賞を立川法人会が、健康経営大賞を株式会社金沢シールが受賞しました。閉会式では、次の開催地である山梨県への大会旗の引継ぎが行われました。

大会の締めくくりとして行われた大懇親会では、映画やドラマにもなった福井商業高校チアリーダー部「JETS」のパフォーマンスが披露され、会場を大いに盛り上げました。また、ものまね芸人の神無月さんによるショーも行われ、笑い感動に包まれた時間となりました。

最後に今回の福井大会に参加できたことは大変光栄であり、大会を支え続けてきた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。この大会を通じて、先代から引き継がれた志を胸に、次世代により良い社会を継承するための決意を新たにすることができました。